

## 1 題材について

|             |   |
|-------------|---|
| 対 象 学 年     | 中学校 第2学年  |
| 学 習 指 導 要 領 | 第2学年及び第3学年の内容 A表現(1)工、キ   |
| 題 材 名       | 曲の仕組みと声部の役割を生かした合唱をしよう(全7時間)<br>【教材名】<br>表現教材:「地球の詩」「あの山を思い出そう」   |
| 題 材 目 標     | 各声部の特徴と役割、声部の構造、曲の仕組み、全体の響きの調和に関心をもって、合唱表現に意欲的に取り組むことができる。<br>(音楽への関心・意欲・態度)<br><br>各声部の特徴と役割、声部の構造、曲の仕組み、全体の響きの調和を感じ取って合唱表現を工夫することができる。<br>(音楽的な感受や表現の工夫)<br><br>各声部の特徴と役割、声部の構造、曲の仕組み、全体の響きの調和を感じ取って合唱表現をする技能を身に付けることができる。<br>(表現の技能)   |
| 配 慮 事 項     | 基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫<br>題材指導計画作成上の工夫(教材選択、教材配列、教材の時間配分等)<br>・「地球の詩」では、ユニゾン～混声二部～男声二部+女声～混声四部の曲の仕組みに重点をおき、「あの山を思い出そう」では、ソプラノを主旋律として他パートがどのように支えているのかを重点とした声部の役割を理解する。<br>・パート練習やグループ練習を位置付け、自分のパートの役割を理解し、それを生かして他パートと歌い合わせていく力を付ける。<br><br>単位時間における工夫(音楽活動の基礎的な能力を伸ばす指導・援助等)<br>・音楽を形づくっている諸要素(和声を含む音と音とのかかわり合いや曲の仕組みからつかんだ声部の役割)を知覚し、音楽の美しさや豊かさを感じ取り、各自が楽譜に記入し、根拠をもって表現活動にむかうようにする。<br>・各自が曲の仕組みからつかんだ声部の役割を、パート内で明確にし、表現の工夫へとつなげていくための拡大楽譜を準備する。<br>・演奏を客観的にとらえるために、お互いの表現を聴き合う場や録音をして聴き合う場、小グループ練習の場を設定する。<br>・お互いの声に耳が傾けられ、ハーモニーの美しさ、豊かさを感じ取るために、ア・カペラで表現する。 |
| 参 考 資 料     |   |

2 題材の評価規準

|                  | ア 音楽への関心・意欲・態度   | イ 音楽的な感受や表現の工夫  | ウ 表現の技能   |
|------------------|--|---|---|
| 歌唱               |  |   |   |
| 内容のごまとのま評価規準     | <p>【歌唱】<br/>歌詞の内容や曲想、曲種に応じた発声や美しい言葉の表現、声部の役割と全体の響きに関心を持ち、曲にふさわしい歌唱や合唱の表現をすることに意欲的である。</p>  | <p>【歌唱】<br/>音楽の構成要素・表現要素を知覚し、それらが生み出す曲想の美しさを感じ取っている。</p> <p>歌詞の内容や曲想の味わい、曲種に応じた発声や言葉の特性、声部の役割と全体の響きの調和を感じ取っている。</p> <p>歌詞の内容や曲想の味わい、曲種に応じた発声や言葉の特性、声部の役割と全体の響きの調和を感じ取って歌唱や合唱の表現を工夫している。</p> | <p>【歌唱】<br/>歌詞の内容や曲想、曲種に応じた発声や言葉の特性を生かして歌唱表現をする技能（読譜力を含む）を身に付けている。</p> <p>声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて合唱表現をする技能を身に付けている。</p> |
| 題材の評価規準          | <p>各声部の特徴と役割、声部の構造、曲の仕組み、全体の響きの調和に関心をもって、合唱表現に意欲的に取り組んでいる。</p>   | <p>各声部の特徴と役割、声部の構造、曲の仕組み、全体の響きの調和を感じ取って合唱表現を工夫している。</p>   | <p>各声部の特徴と役割、声部の構造、曲の仕組み、全体の響きの調和を感じ取って合唱表現をする技能を身に付けている。</p>   |
| 単位時間における具体的な評価規準 | <p>声部の役割や曲の仕組み（ユニゾン～混声二部～男声二部＋女声～混声四部）に関心をもって聴き、曲の仕組みが変わるところを楽譜に書き込み、パートの役割をつかもうとしている。（歌唱）</p> <p>3つのパートの音が重なり合うことで、美しい三部の響きができるということを感じ取り、美しい表現にむけて意欲をもって取り組んでいる。（歌唱）</p> | <p>それぞれの場面の移り変わりを、最初の言葉を明確に発音することで表現しようとしている。（歌唱）</p> <p>後半のパートの重なりを表現に生かして、cresc. f ffの強弱の工夫をしている。（歌唱）</p> <p>他のパートの音量を意識しながら、曲にふさわしい音色を工夫している。（歌唱）</p>                                    | <p>声部の役割を意識して、正しいリズム・音程で合唱表現をする技能を身に付けている。（歌唱）</p> <p>旋律の抑揚を意識しながら、正しい音程で合唱表現する技能を身に付けている。（歌唱）</p>                    |

3 指導と評価の計画（全7時間）

| 時 | 教材   | ねらい  | 学 習 活 動   | 評価規準  | 評価方法  | 指導・援助   |
|---|------|--|---|---|---|---|
| 1 | 地球の詩 | <p>範唱を聴くことを通して、曲の仕組みや声部の役割に関心を持ち、自分のパートの役割をつかむことができる。</p>  | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>曲の仕組みを理解して、自分のパートの役割をつかもう。</p> </div> <p>「地球の詩」の範唱CDを各パートの動きに気を付けながら聴き、ユニゾン～混声二部～男声二部＋女声～混声四部の曲の仕組みに気付き、自分のパートの役割をつかむことができる。</p> <p>全パートと一緒にパート練習をする。<br/>(ユニゾン、混声二部の部分)</p>                     | <p>&lt;ア - &gt;<br/>声部の役割や曲の仕組み(ユニゾン～混声二部～男声二部＋女声～混声四部)に関心をもって聴き、曲の仕組みが変わるところを楽譜に書き込み、パートの役割をつかもうとしている。</p> | <p>個人の楽譜への書き込み</p>  | <p>書き込みができない生徒と一緒に指で楽譜をなぞりながら聴き、パートの動きが変わっていくところを助言する。<br/>パートの役割や曲の仕組みを拡大楽譜に書き込み、理解できるようにする。</p> |
| 2 |      | <p>後半の同声2部での男声と女声のかかり合いの中に、主旋律とそれに和声をつけるという役割を生かして、女声パートは「さあ歌おう～」男声パートは「太陽も～」から、自分のパートを正しいリズム、音程で歌うことができる。</p> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>自分のパートの旋律を正しく歌えるようにしよう。</p> </div> <p>パート練習をする。<br/>・声部の役割を明確にしなが、パートリーダーを中心に練習を進める。</p> <p>声部の役割を生かして、自分のパートが正確なリズム・音程で歌えるように合同パート練習をする。<br/>テナーとバス<br/>(太陽も笑うよ～)<br/>ソプラノとアルト<br/>(さあ歌おう～)</p> | <p>&lt;ウ - &gt;<br/>声部の役割を意識して、正しいリズム・音程で合唱表現をする技能を身に付けている。</p>   | <p>観察<br/>・男声二部<br/>女声二部のそれぞれのパートがつかられないで正確な音程で歌っている歌唱表現から評価する。<br/>・男声と女声のかけ合いの中でリ</p> | <p>他パートにつられてしまう生徒に、二部に分かれる最初の音を確実に歌えるように一緒に歌う。<br/>リズムが取れない生徒に、拍子をとったり、指揮を振って拍を意識させたりする。</p>      |

|   |  |  |  |   |  |
|---|--|--|--|---|--|
|   |  | 全体で合わせる。(録音する)   |  | ズムをそろえるところを正確に歌っている歌唱表現から評価する。  | 自信をもって正確に歌えている子をつられてしまう子の隣に移動させて、アドバイスをするように助言する。  |
| 3 | <p>曲の仕組み(ユニゾン～混声二部～男声二部+女声～混声四部)を表現するために、旋律を意識しながら、仕組みの移り変わりやおいかげ合うところの言葉をはっきりと表現することができる。</p> | <p>録音を聴いて、曲の仕組みを生かすための表現の工夫を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>役割の変化を生かした表現をしよう。</p> </div> <p>役割を生かして表現するために、自分のパートの変化を言葉を明確に発音することで表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体で一斉にパート練習をする。</li> </ul> <p>パートを2つにわけて聴き合う。</p> | <p>&lt;イ - &gt;<br/>それぞれの場面の移り変わりを、最初の言葉を明確に発音することで表現しようとしている。</p> | <p>観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口形を意識しながら発音しようとしている歌唱表現から評価する。</li> <li>・ただ歌い合わせるだけではなく、相手の声を意識しながら声の出し方を工夫しようとしている歌唱表現から評価する。</li> </ul> | <p>口形がはっきりしない生徒に、「ア」「オ」の形を教師が実際にやってみせて確認する。</p> <p>自分は精一杯歌えているが、相手の声を聴かないで歌っている生徒に、相手の声を聴きながら歌うことと声の出し方をアドバイスする。</p> |
| 4 | <p>後半のパートの重なり(女声パートと男声パートがおいかげ合いながら最後にリズムをあわせ、テナーパートに主旋律を受け渡し、最後に混声四部になる)を曲の盛り上げ</p>           | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>パートの重なりを聴き合いながら、後半の曲の盛り上げを表現しよう。</p> </div> <p>後半の曲の仕組み、声部の役割と曲の盛り上がりとの関係を、拡大楽譜を使いながら確認する。</p> <p>全体で練習をする。<br/>(録音をする)</p>  | <p>&lt;イ - &gt;<br/>後半のパートの重なりを表現に生かして、</p>                        | <p>観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パートの重なりを感じ取って、cresc. f</li> </ul>   | <p>自分の声を精一杯出している生徒を認めながら、パートの重</p>   |

|   |   |  |  |   |  |
|---|---|--|--|---|--|
|   | <p>りにつなげて表現することができる。</p> <p>録音を聴いて、後半の曲の盛り上がり表現できているかを確認し、十分でないところを再度練習する。<br/>(録音をする)</p> <p>録音を聴いて、曲の仕組みを生かした表現できているかを確認する。</p> | <p>cresc. f<br/>ffの強弱の工夫をしている。</p>   | <p>ffの表現を工夫しようとしている表現から評価する。</p>   | <p>なりと役割を確認して、強弱を意識するようにアドバイスをする。</p>                         |  |
| 5 | <p>あ のオルガンで演奏する2つの声部の重なりを聴くことを通して、旋律と、旋律に出そうという声部の役割をつかむことができる。</p>   | <p>それぞれのパートの役割をつかもう。</p> <p>「あの山を思い出そう」のそれぞれのパートの音、ソプラノとアルト、ソプラノと男声、アルトと男声の音の重なりを聴いて各声部の役割をつかむ。</p> <p>パート練習をする。</p>   | <p>&lt;ア - &gt;<br/>3つのパートの音が重なり合うことで、美しい三部の響きができるということを感じ取り、美しい表現にむけて意欲をもって取り組んでいる。</p> | <p>学習プリント<br/>観察<br/>・それぞれのパートの重要性や役割についての記述や発言内容から評価する。</p>  | <p>拡大楽譜にそれぞれの役割がわかるよう、書き込みをする。</p> <p>役割についてまで意見がもてない生徒には、どんな感じがしたかを記述するよう声をかける。</p> |
| 6 | <p>美しい響きを生み出すためには、音の支えがなくても正しい音程で歌えることが大切であることをつかみ、三声のハーモニーをつくるための一つの旋律線を確実に歌うことができる。</p>   | <p>自分のパートの音の支えがなくても、アカペラで正しい音程で自分のパートを歌えるようにしましょう。</p> <p>パート練習をする。(一斉に練習をする)<br/>・それぞれのパートで音を弾く。</p> <p>音の支えがなくても正しい音程で自信をもって歌えるように練習をする。(合わせコーナーをつくる。)<br/>・ソプラノとアルト、テノールとバスのペア練習をする。</p> <p>・全パートの合わせ練習(グループ練習)をする。</p> | <p>&lt;ウ - &gt;<br/>旋律の抑揚を意識しながら、正しい音程で合唱表現する技能を身に付けている。</p>                             | <p>観察<br/>・ペア練習の時に巡回し、歌唱表現の音程の正しさから評価する。<br/>・合わせコーナーでのグル</p> | <p>正確に音程が取れていない生徒に、一緒に歌いながら旋律の流れを手で示したり、はずしてはいけない音を確認したりし</p>                        |

|   |   |   |   |   |  |
|---|---|---|---|---|--|
|   |   | <p>・合わせコーナーで教師の評価を受ける。</p> <p>全体で合唱する。(録音)</p> <p>本時の振り返りをする。</p>   |   | <p>ープ発表の時に、他のパートの中で、自分のパートの旋律を正しく歌唱する表現から評価する。</p>              | <p>て、一緒に練習したりする。</p> <p>正確に音が取れるようになった生徒に、まだ不安がある生徒と一緒に歌いアドバイスをするように指示をだす。</p> <p>合わせコーナーに拡大楽譜を準備し、どこが歌えていないのか、どのパートが不安定なのかをはっきりさせ、どのような練習をすればよいかをアドバイスする。</p> |
| 7 | <p>美しい三部の響き(和音)をつくるためには、自分の確かな旋律線がないと成立しないという意識をもち、美しい響き、豊かな響きにするために、音色をそろえることができる。</p> | <p>自分たちの録音を聴いて、それぞれのパートの役割が果たされているかを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>より美しい響きをめざして、各パートのバランスや音色を工夫して表現しよう。</p> </div> <p>各グループ(3つ)で、より美しい響きにするためのパートのバランスや声の出し方やブレスの仕方を話し合い、練習をする。</p> <p>グループ発表会をする。</p> <p>まとめの合唱をする。</p> | <p>&lt;イ - &gt;<br/>他のパートの音量を意識しながら、曲にふさわしい音色を工夫している。</p> | <p>観察<br/>・他パートを意識しながら、声の出し方やブレスの仕方を工夫しようとしている姿や歌唱表現から評価する。</p> | <p>楽譜の書き込みを見ながら強調するところを確認し、一緒に歌いながら相手の声を意識させて歌い合わせる部分をアドバイスする。</p> <p>響きのある声を出している生徒の隣で、声やブレスを合わせながら歌うようにアドバイスをする。</p>   |

#### 4 単位時間の授業展開例

##### (1) 本時のねらい

美しい響きを生み出すためには、音の支えがなくても正しい音程で歌えることが大切であることをつかみ、三声のハーモニーをつくるための一つ一つの旋律線を確実に歌うことができる。

##### (2) 本時の位置

6 / 7時

##### (3) 展開案

| 過程               | 学 習 活 動  | 評価について   | 指導・援助   |
|------------------|--|--|---|
| つ<br>か<br>む      | 1 「あの山を思い出そう」を歌う。(それぞれのパートの音を弾いて)  |  |   |
|                  | 自分のパートの音の支えがなくても、アカペラで正しい音程で自分のパートを歌えるようにしよう。  |  |   |
| 高<br>め<br>る      | 2 パート練習をする。  |  |   |
|                  | 3 音の支えがなくても正しい音程で自信をもって歌えるように練習をする。(合わせコーナーをつくる。) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソプラノとアルト、テノールとバスでペア練習をする。</li> </ul> ・全パートで合わせる(グループ)練習をする。<br>・合わせコーナーで先生にチェックを受ける。 | <ウ - ><br>旋律の抑揚を意識しながら、正しい音程で合唱表現する技能を身に付けている。<br>(歌唱)<br>観察 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペア練習の時に巡回し、歌唱表現の音程の正しさから評価する。</li> <li>・合わせコーナーでのグループ発表の時に、他のパートの中で、自分のパートの旋律を正しく歌唱する表現から評価する。</li> </ul> | 正確に音程が取れていない生徒に、一緒に歌いながら旋律の流れを手で示したり、はずしてはいけない音を確認したりして、一緒に練習したりする。<br>正確に音が取れるようになった生徒に、まだ不安がある生徒と一緒に歌いアドバイスをするように指示をだす。<br>合わせコーナーに拡大楽譜を準備し、どこが歌えていないのか、どのパートが不安定なのかをはっきりさせ、どのような練習をするとよいかをアドバイスする。 |
| ま<br>と<br>め<br>る | 3 全体で合わせる(録音する)  |  |   |
|                  | 4 本時の振り返りをする。  |  |   |

## 5 評価の実際と個に応じた指導事例

### (1) 本時重点的に取り上げた評価規準

評価規準<ウ - >

旋律の抑揚を意識しながら、正しい音程で合唱表現する技能を身に付けている。

### (2) 評価の実際

評価の方法

観察

- ・ペア練習の時に巡回し、歌唱表現の音程の正しさから評価した。
- ・合わせコーナーでのグループ発表の時に、他のパートの中で、自分のパートの旋律を正しく歌唱する表現から評価した。

判断の事例

「努力を要する状況」(C)と判断

- ・他パートと歌い合わせる中で、自分のパートの旋律を正確に歌えない生徒をCと判断した。

「十分満足できる状況」(A)と判断

- ・他パートと歌い合わせる中で、他のパートを聴きながら自分の旋律を確かな音程で歌う生徒をAと判断した。

### (3) 個に応じた指導の実際 (Cと判断される状況への働きかけ)

音程が不安定な生徒

- ・音程が合っている時は、「あっているよ」と声をかけ自信をもたせ、音はずれた時に、「音があがっていない。」あるいは、「下がりすぎている」という声をかけ、ピアノで音を出して一緒に歌った。
- ・旋律の流れを手で示して音の高さをつかませたり、部分的に階名唱をさせたりした。
- ・生徒のどの音が不安定なのかを生徒の楽譜に書き込んで残し、意識して歌えるようにした。

以上のように指導することによって、旋律の抑揚を意識しながら正確な音程で歌えるようになってきた。全体を通して練習しないで、合わない部分を何度も繰り返し練習することをアドバイスして練習を進めた。